

# 今回のまめ知識

## 色覚検査は？

小学校で義務づけられていた色覚検査がおこなわれなくなっていることにお気づきでしたか？

2003年に必須項目から除外され、10年がたち、検査を全く受けずに育った世代が進学や就職など進路決定の時期を迎えています。

「差別の温床となる」との理由で廃止されました。

それは

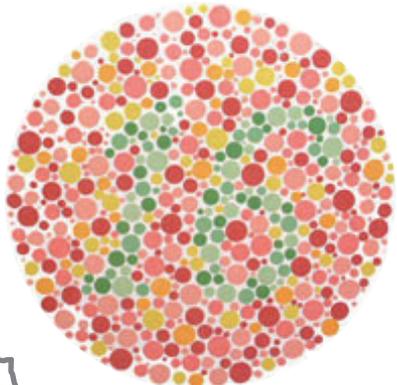
- ①明治ころに海外で乗務員の色誤認が原因とされた事故がおこり、軍隊の検査に組み込まれ、重要視されすぎた
- ②色感覚の多少の違いだが、「異常」とレッテルをはられる。
- ③遺伝が関係するため、家庭内での犯人捜し
- ④誤情報（信号がわからない、運転免許がとれない←間違いです）。
- ⑤詐欺まがいの治療の横行
- ⑥学校での画一的検査

などの問題も含んでいたためです。

現在は、大学入試や企業採用項目からもほぼはずされましたが、色誤認が業務に支障を生じたり、安全をそこなう可能性がある職種では、少し制限は残っています。

この段階になってはじめて発覚し、もっと早く知っていたら、進路をかえたのに、という声があがりつつあります。

実は「色覚異常」(病名としていろいろ議論あり)の人は日本人男性の5% (20人に一人)、女性の0.2%の割合にいるほど多い



のです。本人も周囲も気づきにくく、日常生活で、少々のまちがいはあるものの、色以外の情報(形や文字など)も参考にして経験を積み重ねるので、支障はすくないのです。しかし、検査を受けないかぎり、タイプや程度、対処法などもわかりません。カラフルな小学校教科書やパステルカラーの防災マップなど色があふれる現代では、色誤認が不利とならないよう、自分の特徴(個性として)知り、対策を講じたいものです。おかしい? と思ったり不安がある生徒や保護者の方は、早めに養護教諭などに相談の上、眼科受診が望ましいでしょう。次回は、色についての身近な情報のお話しです。

1月2月はあつという間にすぎ、はや春の気配が、、、。毎年、「暑さ寒さも彼岸まで」とはよくいったものだと思心しますが、まだまだインフルエンザ感染もあります。花粉症も少し遅れて、どっときています！



健生病院

眼科だより 第5回

初春号

### 土曜日の診療日

4月5日【土】・19日【土】 5月17日【土】(第1土曜の3日は祝日のため) 6月7日【土】・21日【土】